



やさしい心

調布市は12月を「いのちと心の教育月間」としています。本校では先週の土曜日に、生命誕生の講演会を開催して、みんなで「いのち」について学びました。今日は、「心」について考えてみましょう。

六中生の三つの心「思いやりの心、やさしい心、感謝の心」は世の中を幸せに生きていく上でとても大切だと僕は思っています。前回の生徒朝礼では生徒会長から「思いやりの心」についての話がありました。いじめなんかしないで思いやりをもって友だちを大切にしようよ。といった内容でした。みんな真剣に聞いていましたね。

今朝、僕からは「やさしい心」について話します。実は、やさしいってというのは定義するのがむずかしい言葉です。そこで「感謝の心」「思いやりの心」と比較しながら話を進めましょう。

まず「感謝の心」について。自分に何かしてくれた人に「ありがとう。」友だちに「一緒に居てくれるだけでうれしいよ。ありがとう。」会ったことはないけどおいしいお米を作ってくれたお百姓さんに「感謝してご飯をいただきます。ありがとうございます。」というふうに、誰かに、あるいは何かに、と対象があるのが「感謝の心」ですね。

では「思いやりの心」はどうでしょうか。重そうな荷物をもって歩いているお年寄りに「荷物を持ちましょう。」何か困ってる様子の友だちに「どうしたんだい。」と声をかけるのも思いやり。生徒会長が話してくれたように、相手の立場に立つ

て考えて行動することも思いやりです。ということは、「思いやりの心」も「感謝の心」と同様に、相手や対象、出来事があることで、もつことができるものだと思います。

さて「やさしい心」。これは相手や対象、出来事がなくても、もてるものだと僕は思います。今日は何となく気分がいいとか、今日は何があっても大丈夫、くじけないですごくせそうだなとか、今日は何があっても許せるなとかいう、おだやかな気持ちになる日が君たちにはありませんか。僕はこの気持ちが「やさしい心」の要素だと思うのです。こういう気持ちのときに、私たちは誰かに何かしてあげようとか、何かしてもらって素直にありがとう、となるのだと思います。

つまり、「やさしい心」があるからこそ「思いやりの心」「感謝の心」が生まれるのではないのでしょうか。理屈じゃなくて、もっともっと深いところで人間の生き方の土台になるのが「やさしい心」なんだろうと僕は考えます。

なので「やさしい心」をもつには周りがどうあろうと、自分の心の中にやさしさが自然にわき上がってくるような生き方をしなければならんだな、と強く感じます。今年もあとわずかとなりました。お互い、どう生きるべきなのか、年末は自分の生き方を見直して、新たな決意をもって新年を迎えたいですね。

[今月の巻頭言は12月12日朝礼 校長講話から]

今後の予定

- | | |
|-----------------|----------------|
| 12/19 移動教室保護者会 | 1/10 第3学期始業式 |
| 12/20 夢未来プロジェクト | 1/13 調布市学習状況調査 |
| 12/21 給食終了・大掃除 | 1/14 学校公開 |
| 12/22 第2学期終業式 | 1/17 研究発表会 |

六中生の心

思いやりの心

やさしい心

感謝の心